



148

13
1961
148





狂言 至極 秋合 泉市 補上

板新

市泉

補上

遠
1961
101
三册合

13
1961
148

自序



鼻はなの故ゆゑは、かといふと、三本が鼻ハ名ト
ことようくおし宍山の両坊或ハ三本松ノ熱州を
 飲シ大塔宮ハころあリ其傳居ク多クあリハ
 道カア卑居テ多クと世高情といハ平
 其已惚ハ鼻街ノ満路ヲ閉ク多ク
 賤妓の為は落れル也三星の膏菜あリテ
 これを呼ビいフ多ク今ノ代ハ鼻ノ名ト
 身ヲ多ク変リ今ノ代ハ鼻ノ名ト
 已惚の中に示す所に序もある作者の鼻ノ名ト
 見ラる所に物ありト序の末子あり云

東小

くるよ竹の葉とわかれ
 けちより雷の音
 ちかちかあり
 びわくありまよ
 りんぎよ子せしめ
 雷のつれ合とてけ
 ていまのあんし
 ありきとくまふ
 ありのりけむま
 慢ぞとどき男
 わりまらうと悟通
 ぼろりありとより
 言田家のむさこ
 れとせふうま
 茶とのおふつり
 とのふんむんま
 あらうまふと
 ありまらうま
 て大うまふ
 うねとて
 うねとて



おりや
 17家の
 さいはるえ
 こらとの
 めんせ
 せいよ

ちかちかありまよ
 びわくありまよ
 りんぎよ子せしめ
 雷のつれ合とてけ
 ていまのあんし
 ありきとくまふ
 ありのりけむま
 慢ぞとどき男
 わりまらうと悟通
 ぼろりありとより
 言田家のむさこ
 れとせふうま
 茶とのおふつり
 とのふんむんま
 あらうまふと
 ありまらうま
 て大うまふ
 うねとて
 うねとて



ちかちかありまよ
 びわくありまよ
 りんぎよ子せしめ
 雷のつれ合とてけ
 ていまのあんし
 ありきとくまふ
 ありのりけむま
 慢ぞとどき男
 わりまらうと悟通
 ぼろりありとより
 言田家のむさこ
 れとせふうま
 茶とのおふつり
 とのふんむんま
 あらうまふと
 ありまらうま
 て大うまふ
 うねとて
 うねとて



一万里をこえんとおもふと一日の間は
 おちつきをあらわす石のらいたるを智國とわり
 させたりとあるを生まるる一りのくまあると
 かたむかうちむくいの人となりてうきとせん
 ら一に男二人にうりむきやうまつてその
 わきこまぬがまんつうを生まるるてごま
 りよとせむらふて叶一のるあのはかんと
 さむらふかたれがれくごまのまはるる
 かむらひのらとわひま

一万里をこえんとおもふと一日の間は
 おちつきをあらわす石のらいたるを智國とわり



一万里をこえんとおもふと一日の間は
 おちつきをあらわす石のらいたるを智國とわり
 させたりとあるを生まるる一りのくまあると
 かたむかうちむくいの人となりてうきとせん
 ら一に男二人にうりむきやうまつてその
 わきこまぬがまんつうを生まるるてごま
 りよとせむらふて叶一のるあのはかんと
 さむらふかたれがれくごまのまはるる
 かむらひのらとわひま

一万里をこえんとおもふと一日の間は
 おちつきをあらわす石のらいたるを智國とわり

一万里をこえんとおもふと一日の間は
 おちつきをあらわす石のらいたるを智國とわり



茶の湯
上ひんち
のいご
せんご
おのり
すんご
ろくご
二三
す
茶の湯
おのり
せんご
おのり
すんご
ろくご
二三
す

漬松ひら
わけてひらやとりを油やの
てまらつてよろかとう
すねもおろしられぬ又茶を
のびるはかろくしすい
すいよすみんちをむり
三層人すもしてをまか
そよあられぬとてあそひ
あそひのすはは怪三

あつち
油やとり
おのり
すんご
ろくご
二三
す



新春板

高牌
狂洲
至無殺人鼻心神中

市泉

神芝

ふんせりや

天約い懐三を居ちやてふりあひて
三つにせりやケ懐三に居ちやてふりあひて
やうあつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて

あつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて
あつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて
あつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて

どう人トク
ちりりりりりり
ひまらん



あつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて
あつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて

歌曲は美人懐三とてつれて
音曲は美人懐三とてつれて

其角山風雲が居ちやてふりあひて
つれあひたりやてふりあひて

そのとれ人
ちいさなのこととて出
懐三とてつれて
わとれとてつれて

イヤハヤ
ソラソラ
人おと

千白関 本ル廿五日

あつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて



あつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて

あつたれか入らぬとてふりあひて
こひりやて

それらういけん
 の先生今存不
 のみ新雲軒が
 こそあつたれ
 一いまいりん
 習とよきて
 世ひかくらそ
 のらまると
 八十をうのら
 なるのりのい
 ありくとあ
 おととととと
 いうと又
 大とと
 へこと



けいれきてはいつとまむ

ろうてま
 受人もか
 さり
 の
 又
 不
 久
 中





紀ん
茶の湯の
まな
利軒の
つん
らん
い

ちやの
5
山





